

授業科目 基礎看護学実習Ⅰ

【担当教員名】		対象学年	1	対象学科	看護
長谷川 隆雄 他		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	45
【概要・一般目標：GI0】					
看護の対象とする人々と看護職の活動の実際を理解する。さらに、看護ケアを必要としている人との関わりを通して援助の人間関係を理解し、その人のニーズに応じた日常生活援助の方法を学ぶ。					
【学習目標・行動目標：SB0】					
1. 入院患者の生活の実際について述べることができる。					
2. 看護活動の実際について知り、看護職の役割を考えることができる。					
3. 受け持ち患者に関心を持つことができる。					
4. 受け持ち患者とコミュニケーションをとることができる。					
5. 受け持ち患者との相互作用について気づくことができる。					
6. 受け持ち患者のニーズを理解することができる。					
7. 受け持ち患者の安全、安楽に配慮し、日常生活の援助が実施できる。					
8. グループ運営に積極的に参加し、実習の学びを発展させることができる。					
9. 看護をする人として、適切な態度をとることができる。					
10. 実習での学びを通して、今後の課題を明確にすることができる。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
	入院生活を送る人々に関心を示し、その人の環境を知る 病棟における看護活動の実際を見学し、看護職の役割について考える 患者を一人の人間として尊重し、関わりを持つ 患者にあった方法を選択して意図的にコミュニケーションをとる 積極的に患者の話を聴く 患者の体験について共に感じ、考えるように努める 患者との関わりの中で、患者および自分自身の言動や気持ちの変化に気づく 患者の入院前からの日常生活習慣、考え方を知る 患者の状態に応じてフィジカルイグザムを実施する 健康上の問題によって生じた生活行動上の制限や変化が患者に及ぼす影響を理解する 入院によって患者の社会生活が変化したことを理解する 患者の状態を考慮して具体的な援助を計画する 計画に基づいて、患者の反応を捉えながら援助を実施する 安全、安楽、自立を考慮して援助を実施する 行った援助について適切に報告し、振り返りと考察を行う カンファレンスに積極的な姿勢で参加し、他の学生と学びを共有する 個人情報保護の観点から、守秘義務を守る 時間を守る行動をとる 身だしなみを整え、礼儀、挨拶、適切な言葉づかいをする 必要に応じて連絡・報告・相談をする 自己の健康管理をする 実習で学んだことから、自分の注目した点に関するテーマをつけて、レポートする 教員との面接において、自己の課題を明確にする			1	I－a（基礎看護学全教員）
				2	
				3	I－b（基礎看護学全教員）
				4	
				5	
				6	
				7	
				8	I－a、I－b（基礎看護学全教員）
				9	
				10	
【使用図書】		<書名>		<著者名>	<発行所>
教科書 (必ず購入する書籍)		<発行年・価格 他>			
参考書					
その他の資料		看護学臨地実習共通要項 基礎看護学実習Ⅰ要項 配布資料			
【評価方法】		【履修上の留意点】			
出席：10%		・見学実習であるI－a（前期）とI－bに分けて実施する。			
実習内容：70%		・対象者の安全の確保やプライバシーの保護など、倫理的な配慮に十分留意する。			
課題レポート：20%		・援助の人間関係論、日常生活援助技術、フィジカルアセスメントについて、事前に十分学習する。			
		・原則として実習オリエンテーションを受けなければ、実習には出席できない。			